



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2014年度 No.2)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2014 (第13回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCGシンポジウム2014開催のご案内
- ◆2015年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (MVE)
- ◆研究会活動報告 (ICB)

FIT2014 (第13回情報科学フォーラム) 開催のご報告

HCG企画幹事  
川原靖弘 (放送大)

FIT2014 (第13回情報科学技術フォーラム) が、平成26年 9月 3日 (水) から5日 (金) まで、筑波大学筑波キャンパスにおいて開催されました。

FIT (Forum on Information Technology) は、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) 及びヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) と情報処理学会 (IPSJ) との合同で開催されるフォーラムで、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などの実現を目標としています。

今年で13回目となるFIT2014は、講演論文集掲載数501件、イベント企画数17件となり、多くの発表者、参加者が集う会となりました。各セッション及びイベント会場では、活発な議論がなされていました。

FIT学術表彰式においては、FIT2013ヤングリサーチャー賞10編、FIT2014論文賞2編、FIT2014船井ベストペーパー賞3編、FIT2014船井業績賞の表彰が行われ、引き続き、FIT2014船井業績賞を受賞されたマイクロソフトリサーチアジア首席研究員の辻井潤一氏により「日本を離れて研究をするために」というタイトルの受賞記念講演があり、辻井氏の体験を踏まえた貴重なお話を伺うことができました。

また、昨年度からの新たな試みとして、一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選り贈呈するFIT奨励賞が設けられ、今回は、一般セッション全85セッションから、70名の方が受賞されました。

会期中のイベント企画は、「映像符号化・配信技術の最新標準化動向」、「DTN最前線～時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ～」、「新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうか?」、「自然計算研究の最前線とその将来」、「時空間を制限したプライバシー情報保護

活用のための社会基盤の構築に向けて」、「CPS (サイバーフィジカルシステム) 最前線」、「第2回高性能コンピュータシステム設計コンテスト」などが開催され、最新の技術動向やそれに関連するトレンドな話題が提供されました。

HCGシンポジウム2014開催のご案内

HCG企画幹事  
今井順一 (千葉工大)

毎年12月の恒例となりました、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) が主催するHCGシンポジウム2014の開催のご案内です。

- 会場： 海峽メッセ下関 (<http://www.kaikyomesse.jp/>)
- 会期： 2014年12月17日 (水) ～19日 (金)
- 事前参加締切：2014年11月30日 (日)
- 副題： ヒト・モノ・トコロを紡ぐ豊かな情報を発信するICT

最新情報につきましては下記をご覧ください。

<http://2014.hcg-symposium.org/>

今年度は、昨年度を上回る118件 (口頭発表102件、インタラクティブ発表のみ16件) の発表申込がありました。

昨年に引き続き、今年も全ての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠を付与することにしており、時間を気にすることなく活発な議論を行うことができます。

また、学生の皆様のご発表や萌芽的研究のご発表が多く見られることも本シンポジウムの特徴です。

これからの時代の新しい流れを生み出す場となるよう、運営委員一同準備を進めております。ぜひご参加ください。

本シンポジウムでは、一般セッションに加え、オーガナイズドセッション (OS) 4件、招待講演1件を予定しております。

いずれも活発な議論が交わされることを期待しております。

- OS1 : 「コミック工学」  
12月18日 (木) 11:00～16:25
- OS2 : 「ヒューマンセンタードデザインの理論と実践」  
12月18日 (木) 9:10～10:50
- OS3 : 「雰囲気工学」  
12月18日 (木) 9:10～16:25
- OS4 : 「G空間コンピューティング：センシングからコミュニケーションまで」  
12月17日 (水) 10:15～14:50

招待講演：「防災情報は役に立つのか？」  
森 朗 氏 (株式会社ウェザーマップ；気象予報士)  
12月17日 (水) 15:00～16:00

シンポジウムでの活発な研究議論とともに、JR下関駅前「シーモールパレス」にて開催される懇親会・表彰式にもぜひご参加ください。

HCGシンポジウムが新しいことを生み出す場となりますことを願っております。様々な分野から多くの方にお集まりいただきご発表・ご議論いただくとともに、シンポジウムを存分に楽しんでいただきたいと考えております。皆様、奮ってご参加ください。

## 2015年総合大会投稿のご案内

HCG企画幹事  
川原靖弘 (放送大)

電子情報通信学会では、例年春と秋に大会を開催しており、春にはヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む4ソサイエティ1グループが一堂に会して総合大会を開催いたします。2015年の総合大会は立命館大学 (草津市) において開催されますのでご案内申し上げます。

会 期：2015年 3月10日 (火) ～13日 (金)  
会 場：立命館大学 (草津市)  
懇親会： 3月11日夜 キャンパス内学食で行う予定

講演申込開始：11月 7日  
講演申込締切： 1月 6日  
聴講申込開始： 1月 7日  
聴講申込締切： 2月 9日

最新の情報は下記のURLをご参照ください。

[http://www.toyoag.co.jp/ieice/G\\_top/g\\_top.html](http://www.toyoag.co.jp/ieice/G_top/g_top.html)

総合大会並びにソサイエティ大会では、優秀な論文を発表した方の中から学術奨励賞を選定しております。学術奨励賞は電子工学および情報通信に関する学問技術の奨励のために有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈するものです。平成25年度学術奨励賞授賞式は2014年総合大会で行われました。

また、例年総合大会では多数の企画セッションが開催されます。2014年総合大会においても65件の企画セッションが提案され、開催に向けて準備が進められています。HCG関係では、下記2件の企画セッションが予定されています。

- ・脳科学を基盤とする情報通信新技術の創成に向けて (ICB：情報の認知と行動研究会)  
オーガナイザ：柏岡秀紀 (情報通信研究機構)
- ・教育改革と人材育成

オーガナイザ：小粥締夫 (日本経済大学)

皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ちしております。

## 研究会活動紹介 (MVE)

MVE専門委員長  
小林 稔 (明治大)

MVE研究会は、メディア技術およびバーチャルリアリティ技術を基盤として、人間とコンピュータもしくはコンピュータを介した人間同士のコミュニケーションのための技術を扱う研究会です。実空間、情報空間、および両者が組み合わさった空間において、情報技術により人間のコミュニケーションを支援し拡張するための技術について発表し議論します。

ヒューマンコミュニケーショングループにおいて、新しいアイデアとそのシステム実装に関する議論の場を提供することはMVE研究会の重要な役割です。そのためには、デバイスや人間の感覚についての基礎研究から、システム開発と評価、アプリケーションまで、幅広い領域の理論や技術を持った人の集まりを形成することが重要です。このようなコミュニティの継続的な発展を促すために、MVE研究会が取り組んできた活動について紹介します。

- MVE賞 (<http://www.ieice.org/~mve/award.html>)  
発表の中から内容・発表が優秀なものを、当日聴講した委員が評価し合議で選出し表彰しています。2007年 6月に開始した本制度による授賞件数は2014年 6月までで40件となり、制度として定着したと考えています。今後も、しっかりと評価とフィードバックを通じて、発表者の励みとなる制度を継続していく所存です。
- メンタ制度 (<http://www.ieice.org/~mve/mentor.html>)  
若手研究者の成長を研究会として支援する制度です。研究会に投稿された論文に関して、発表の場でのコメントだけでなく、文章の形でもコメントやアドバイスを返すことで、研究や論文をより良くしたり、着想や研究の進め方、その他優れていると思われる点をさらに伸ばしたりすることが目的です。依頼があれば、その後の研究や学術論文への進め方の相談相手となる場合もあります。メンタ担当者には負担の大きい制度ですが、幹事団を始め専門委員が協力して継続しています。
- 萌芽セッション (<http://www.ieice.org/~mve/short.html#sprout>)  
ショート発表の枠組みにより、研究の初期段階や萌芽的なアイデア段階の研究にも議論の機会を提供する制度です。最初の敷居を低くすることで、さまざまな研究の可能性を研究会で共有します。発表の時間は短く設定しますが議論の時間はしっかりととります。聴衆も「萌芽」を意識して議論することを通じて、研究の芽をどのように発展させるかを共に考える場を提供しています。ポスタ形式など限られた時間枠で議論を深めるための工夫にも取り組んでいます。

これら取組みを通じ、研究の萌芽段階から完成段階まで各段階に必要な支援

